

<集团的かつ持続可能な支援体制の構築に積極的に取り組む事例>

○美しい農村景観を守り、魅力ある地域づくりのために

～10 年後を見据えた体制づくり～

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	静岡県下田市北湯ヶ野 ^{しもだしきたゆがの}			
協定面積 8.1ha	田（100%） 米	畑	草地	採草放牧地
交付金額 169万円	個人配分			48%
	共同取組活動 (52%)	道・水路管理費	36%	
		共同利用機械購入等経費	1%	
		多面的機能増進活動費	9%	
		役員報酬	5%	
		その他	1%	
協定参加者	農業者30人（うち非農家0人）			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

当集落では、平成に入り間もない頃、集落内の農地全体で基盤整備が行われ、数年が経過したところで中山間地域等直接支払制度の第1期がスタートしたため、「みんなでこの整備された水田を守っていこう！」という意識が高まっていたところでもあったため、集落協定の締結にスムーズに取り組むことができた。

3. 取組の内容

制度の第1期から第2期では、交付金を積み立てて共同で使う田植機を購入、また、イノシシが水田を荒らすことが問題となっていたため、協定農用地全体の周囲に電気柵を設置し被害防止を図った。また、第2期では、多面的機能を増進させる取組として、集落内の農道沿いにアジサイやサザンカを植えたことが、農道沿いの草刈労力の軽減などにも役立っている。

第3期対策では、集団サポート型を選択して、5年後、10年後に農地の維持・管理が困難になった農家を集落ぐるみで支援する仕組みをつくるとともに、耕作が困難になったほ場の管理について、担い手を明らかにし、役割分担を集落協定に位置づけることによって、耕作放棄地の発生防止に努めているところである。



【集落の様子】



【農作業の委託】

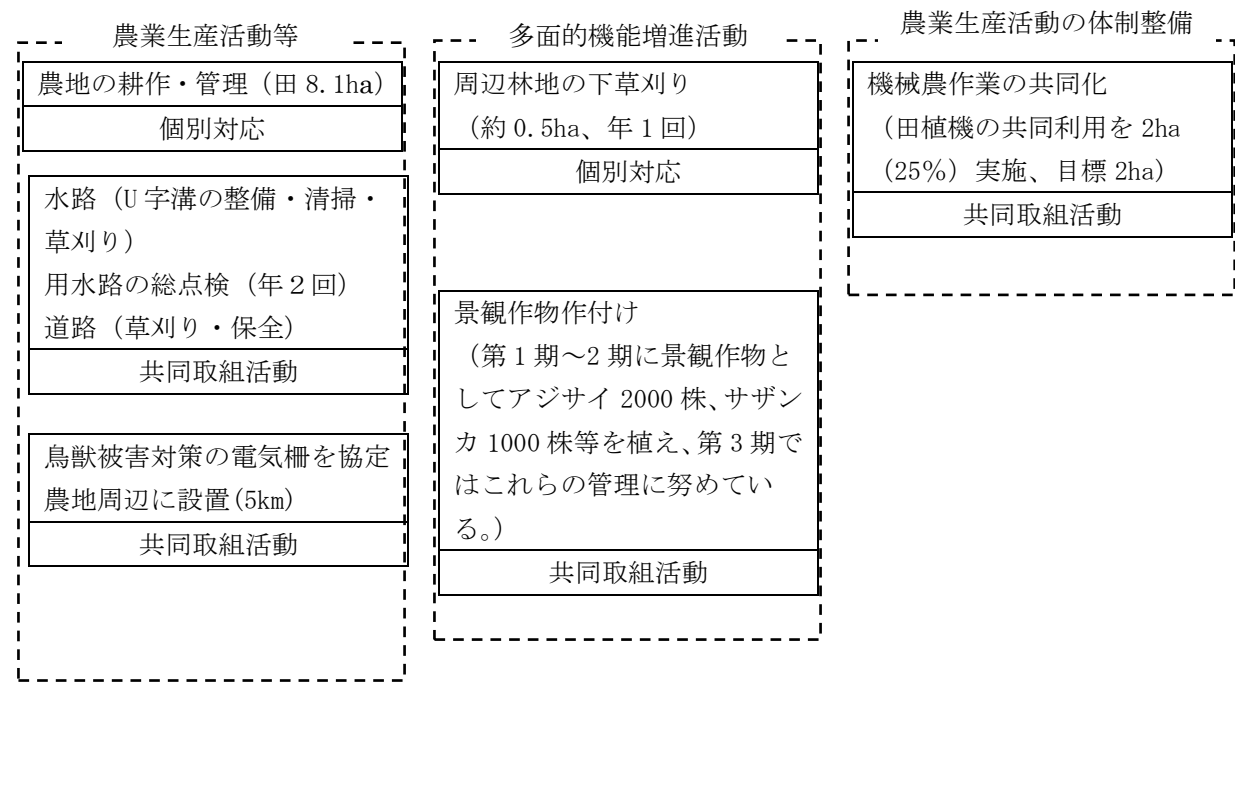
〔集落の将来像〕

○ 農業者の高齢化が進行する中でも、高齢者でも安全かつ効率的に農業に取り組むことができる集落を目指す。また、集落の美しい農村景観を守り、住む人も訪れる人にも魅力ある地域づくりを進めていく。



〔将来像を実現するための活動目標〕

- 共同作業を充実させ、共有農機具を有効活用することで、個々の農家の負担を軽減する。
- 担い手確保のために、交付金の個人配分を増やし、より多くの農業者が集落協定に参加するよう呼びかけを行う。



集落外との連携

○ 集落外の担い手（認定農業者・農機具販売業者）に田植えと稲刈り作業を委託 1.5ha。

4. 今後の課題等

北湯ヶ野集落においても高齢化が進行しており、将来的な担い手を確保していくことが重要な課題であり、交付金は主に共同取組活動（62%）のために使ってきたが、第 3 期対策からは個人への配分を増やし（共同取組活動 52%）、より多くの農業者が協定に参加するように呼びかけているところである。

〔第 2 期対策の主な成果〕

- ・ 田植え機、コンバインの導入
- ・ 電気柵の設置（5km）
- ・ 景観作物の植栽（アジサイ 2,800 本）